

二〇二五年度 学校推薦型選抜

経済情報学部経済情報学科 特別推薦

小論文 問題冊子

（解答時間 九〇分）

注意事項

- 一 監督者の指示があるまでは、配布された問題用紙、解答用紙を開いてはいけない。
- 二 試験開始後、問題用紙および解答用紙がそろっているか確かめよ。
問題用紙（この表紙を含め 七枚）
解答用紙（三枚）
もし足りない場合は、監督者に知らせること。
- 三 解答用紙の受験番号記入欄に、もれなく受験番号を記入すること。
- 四 解答は、問題一は縦書き、問題二は横書きで記入すること。
- 五 解答用紙のみを提出し、配布された問題用紙は持ち帰ること。

問題一 次の文章は渋沢栄一『論語と算盤』の現代語訳(二〇二二年)の第一章「処世と信条」の一部を引用したものである。

小項目として(一)『論語』とソロバンは、はなはだ遠くて近いもの、(二)士魂商才、(三)得意なときと、失意のとき、というタイトルが付けられています。全文を読み、後の問いに答えなさい。

(一)『論語』とソロバンは、はなはだ遠くて近いもの

弟子たちが孔子のことについて書いた『論語』という書物がある。ここには今、われわれが道德の手本とすべきもっとも重要な教えが載っている。

たいていの人は、『論語』くらい読んだことがあるだろう。わたしはこれに、ソロバンというとても不釣り合いで、かけ離れたものをかけ合わせて、いつもこう説いている。「ソロバンは『論語』によってできている。『論語』もまた、ソロバンの働きによって、本当の経済活動と結びついてくる。だからこそ『論語』とソロバンは、とてもかけ離れているように見えて、実はとても近いものもある」

わたしが七十歳になったときに、友人が一冊の画帳を造ってくれた。その画帳のなかには『論語』の本とソロバン、一方にはシルクハットと大小の朱色に塗った刀のサヤが描いてあった。ある日、学者の三島毅先生が、わたしの自宅にいらっしやって、その絵を見られると、こういわれた。

「とても面白い。わたしは『論語』を読む方で、おまえはソロバンを探究している方だ。そのソロバンを持つ人が『論語』のような本を立派に語る以上は、自分もまた『論語』だけで済ませず、ソロバンの方も大いにきわめなければならない。だから、お前とともに『論語』とソロバンをなるべくくつつけるように努めよう」

そのうえ、『論語』とソロバンについて、道理と事実と利益とは必ず一致するものであることを、さまざまな例証をそえて本格的な文章に書いてくださった。

わたしは常々、モノの豊かさとは、大きな欲望を抱いて経済活動を行ってやろうというくらいの気概がなければ、進展していかないものだと考えている。空虚な理論に走ったり、中身の無い繁栄をよしとするような国民では、本当の成長とは無関係に終わってしまうのだ。

だからこそ、政界や軍部が大きな顔をしなくて、実業界がなるべく力を持つようにしたいとわれわれは希望している。実業とは、多くの人に、モノが行きわたるようになるなりわいなのだ。これが完全でないと国の富は形にならない。国の富をなす根源は何かといえ、社会の基本的な道德を基盤とした正しい素性の富なのだ。そうでなければ、その富は完全に永続することができない。

ここにおいて『論語』とソロバンというかけ離れたものを一致させることが、今日の急務だと自分は考えているのである。

(二)士魂商才

昔、菅原道真は「和魂漢才」―日本独特の精神と中国の学問をあわせ持つ、ということをいった。これは面白いことだと思う。

これに対してわたしは、常に「士魂商才」―武士の精神と、商人の才覚とをあわせ持つ、ということを提唱している。

まず「和魂漢才」とは、次のような意味になる。日本人たるもの、何より日本に特有のヤマト魂というものを基盤としなければならない。しかし中国は国も古いし、文化もはやくに開けて孔子や孟子のような聖人・賢者を出しているため、政治方面、文学方面他において日本より一日の長がある。それゆえ、中国の文化遺産や学問もあわせて修得して、才能を養わなければならない。中国の文化遺産や学問のなかには、書物も沢山あるけれども、孔子の言行を記した『論語』がその中心になっている。

「士魂商才」というのも同じような意味で、人の世の中で自立していくためには武士のような精神が必要であることはいうまでもない。しかし武士のような精神ばかりに偏って「商才」がなければ、経済の上からも自滅を招くようになる。だから「士魂」とともに「商才」がなければならない。

その「士魂」を、書物を使って養うという場合いろいろな本があるが、やはり『論語』がもつとも「士魂」養成の根底になるものだと思う。では「商才」の方がどうかというと、こちらも『論語』で充分養えるのだ。

道徳を扱った書物と「商才」とは何の関係もないようであるけれども、「商才」というものも、もともと道徳を根底としている。(あ) 不道徳やうそ、外面ばかりで中身のない「商才」など、決して本当の「商才」ではない。そんなのはせいぜい、つまらない才能や、頭がちよっと回る程度でしかないのだ。このように「商才」と道徳とが離れられないのだとすれば、道徳の書である『論語』によって「商才」も養えるわけである。

また世の中を渡っていくのは、とてもむずかしいことではあるけれども、『論語』をよく読んで味わうようにすれば、大きなヒントも得られるものである。だからわたしは、普段から孔子の教えを尊敬し、信ずると同時に、『論語』を社会で生きていくための絶対の教えとして、常に自分の傍から離れたことはない。

……(省略)……

ただし一般の人が孔子の学問を論ずるような場合、よく孔子の精神を探り、文章の裏の裏までくみ取るような読み方をしていかないと、表面的になってしまう怖れがある。

だからわたしは、

「社会で生き抜いていこうとするならば、まず『論語』を熟読しなさい」

というのだ。最近では、世の中の進歩に従って欧米各国から新しい学説が入ってくる。しかしその新しさは、われわれから見ればやはり古いものだ。すでに東洋で数千年前にいっていることと同一のものを、ただ言葉のいい回しを上手に替えているにすぎないと思われるものも多い。

(い) 欧米諸国の、日々進歩する新しいものを研究するのも必要であるが、東洋古来の古いもののなかにも、捨てがたいものがあることを忘れてはならない。

(三)得意なときと、失意のとき

だいたいにおいて人のわざわいの多くは、得意なときに萌してくる。得意なときは誰しも調子に乗ってしまう傾向があるか

ら、わざわざはこの欠陥に喰い入ってくるのである。

ならば世の中で生きていくには、この点に注意し、得意なときだからといって気持ちを緩めず、失意のときだからといって落胆せず、いつも同じ心構えで、道理を守り続けるように心掛けていくことが大切である。

それと共に、「大きなこと」と「些細なこと」についても考えなければならない。

失意のときであれば「些細なこと」にも気を配ったりするものだが、得意なときになると、多くの人の思慮はまったく逆に、「なんだこれくらいのこと」といった具合に、「些細なこと」に対してとくに軽蔑的な態度をとりがちになる。しかし、得意なとき、失意のときにかかわらず、いつも「大きなこと」と「些細なこと」への緻密な心がけを持たないと、思ってもみない失敗に見舞われやすいことを忘れてはならない。

ただし箸の上げ下ろしにも神経をつかうような「些細なこと」へのこだわりは、限りある精神をムダに疲れさせるだけで、何もそんなに心をつかう必要のないこともある。また「大きなこと」だからといって、そんなに心配しなくても済まされることもある。だから、事の大小といったところで、表面から観察してすぐに決めてしまうわけにはいかない。また、「些細なこと」がかえって「大きなこと」となり、「大きなこと」が予想に反して「些細なこと」になる場合もあるから、大小にかかわらず、その性質をよく考慮して、その後でふさわしい取扱いをするように心掛けるのがよいのである。

これに加えて一言っておきたいことは、人が調子に乗るのはよくないということだ。「名声とは、常に困難でいきづまった日々の苦闘のなかから生まれてくる。失敗とは、得意になっていく時期にその原因が生まれる」

と昔の人もいつているが、この言葉は真理である。困難に対処するときにはちょうど「大きなこと」に直面したのと同じ覚悟をもってこれに臨むから、名声を勝ち取る場合が多くなる。世の中で成功者と呼ばれる人々は、必ず、

「あの困難をよくやり遂げた」

「あの苦痛をよくやり抜いた」

というような経験がある。これがつまり、心を引き締めて取り組んだという証拠である。

逆に失敗は、その多くが得意の日に兆しをあらわす。人は得意になっているとき、「些細なこと」の前に臨んだ時のように、「天下に、わたしのできないことなどあろうか」

という気概で、どんなことも頭から呑んでかかるので、目算が外れがちになり、とんでもない失敗に陥ってしまう。それは「些細なこと」から「大きなこと」が生まれるのと同じ意味合いなのだ。

だから人は、得意なときにも調子に乗ることなく、「大きなこと」「些細なこと」に対してと同じ考えや判断をもってこれに臨むのがよい。水戸光圀（黄門）公の壁書のなかに、「小さなことは分別せよ。大きなことには驚くな」とあるのは、まことに知恵ある者の言葉である。

問

【二】(一)『論語』とソロバンは、はなはだ遠くて近いもの、について

洪沢栄一は、論語とソロバンの関係をどのように捉えていたか。一五〇字以内で説明しなさい。

【二】(二)士魂商才、について

(あ)「不道德やうそ、外面ばかりで中身のない『商才』など、決して本当の『商才』ではない」と洪沢は述べているが、現代社会において「不道德」や「うそ」といった行動により「商才」つまり経営活動や経済活動において問題となっている現象がよく生じている。そうした現象について、あなたの知っている事例を紹介しなさい。

(い)この傍線部の意味を四字熟語で表しなさい。

【三】(三)得意なときと、失意のとき、について、この内容を一五〇字以内で要約しなさい。

【四】洪沢栄一はこの著書に『論語と算盤』というタイトルを付けましたが、あなたは、この本の内容からなんとというタイトルを付けるか？そのタイトルを解答しなさい。

【五】二〇二四年は二〇年ぶりに新札が印刷された。政府広報オンラインによれば「新しいお札の肖像になった三名は、新たな産業の育成、女性活躍、科学の発展といった面から日本の近代化に大きく貢献しました」と新札に採用された人たちの特徴を表している。

日本の近代化に(一)新たな産業の育成で貢献したのは「洪沢栄一」であるが、(二)女性活躍、(三)科学の発展に貢献したのは誰か。フルネームで回答しなさい。

政府広報オンライン：<https://www.gov-online.go.jp/article/202406/entry-6075.html#columnFirstSection>

問題二 次の文書を読んで後の問いに答えなさい。

しかし、なぜ実際に売っていないのに売り上げ予想ができるのでしょうか？ パッケージデザインの会社は過去に作ったデザインとそれぞれの売れ行きや市場調査のデータをもっていますが、新しいデザインについては当然データもなく、その売れ行きは未知のはずです。新しい製品の売れ行きを予測するのに、なぜ過去の経験が役立つのでしょうか？ この働きを理解するために、専門家が売れ行き予測をするプロセスを考えてみましょう。

新しいパッケージデザインといっても全く似たものがないということはないはずで、過去のパッケージデザインの中には大なり小なり似たものが見つかるに違いありません。専門家は過去の経験知識を持っていますので、新しく提案されたデザインに似た過去のデザイン例とその販売実績を思い起こすことができます。こういうタイプのデザインは売れ行きが良かったとか悪かったといった記憶がありますので、昔よく売れたものに近いデザインであればよく売れるだろう、というような予測を立てるわけです。

商品の売れ行きは当然のことながら中身の良し悪しが決めるもので、パッケージデザインはむしろ補助的なものです。提案されたデザインに似たパッケージが数個しか見つからなければ、その数個の売れ行きはそれらの中身の良し悪しに大きく影響されます。しかし、たとえば似たパッケージデザインの例が100個あったとすると、そのなかには中身が良い物も悪い物もあるでしょうから、それらの売れ行きへの中身の影響は平均化されて、そのタイプのパッケージが与えた影響の平均値が見えてくるに違いありません。ですから、多くの経験知識をもっている人のほうが平均的には正確な予測ができます。これはAI（機械学習）に置き換えても全く同じで、大量のデータを用いて学習したほうが、より正確な答えを出します。

与えられたパッケージ案について、それに似た100個の過去の例を探し出して、それらの売り上げの平均値を予想として出すことができるような機械ができたとしましょう。その機械にパッケージの修正案を入れると、それに応じて別の100個の過去の例をみつけて売り上げ予想を出しますから、パッケージを修正することによる売り上げ予想の変化がわかります。こうやって修正を繰り返しながら、売れ行きが上がる方向に案を練り上げることができます。

つまり、過去のデータから「このあたりを掘ったらよく金が出たが、あのあたりを掘ってもあまり金が出なかった」というような経験をもとに「地図」のようなものを作り上げているということです。こういう「土地勘」があれば、新しいことをやるときにも「そのあたりなら金が出やすいかもしれない」というような予想ができるわけです。

このように、データサイエンスにおいては質の良いビッグデータをもっていて、このような「地図」を作り上げることができる人や組織が成功しがちです。

AI技術の多くは、大量のデータを学習することによって、新しい入力についても適切な出力をするということをやっています。ですから当然ながら、過去に似たものがないような入力については、AIの出力が適切だとは限りません。パッケージデザインの例では、奇抜なデザインを入力した場合には正確な評価予想が得られないかもしれません。

過去に例のないものについて適切な評価ができないというのは、専門家についてもいえることです。専門家も基本的には過

去の経験から評価を下すわけですから、斬新なデザインについては正しい予測ができない場合もありますし、むしろ拒絶反応を示すこともあるでしょう。過去のデータがないようなものは、うまくいった例がなかったということもありますので、平均的には失敗する可能性が高いでしょうから、専門家が斬新な試みについて拒絶反応を示すことは、むしろ合理的であるとさえいえます。

新しいチャレンジには失敗を伴いがちですが、あえてそのなかに輝くものを見つけて高い評価をして稀に成功を導くためには、深い考察に加えて「ひらめき」や「直感」というようなものが必要となりそうです。しかし、現在のAIにはそういうものは実装されていません。

ここまで紹介したことは、深層学習と呼ばれる機械学習技術を使って、パッケージデザインの売れ行きへの寄与を評価し、その推定値を参考に人がデザインの改良を行っていくというもので、これはいつてみれば深層学習を補助具として人がデザインを工夫する形態となります。最近では、複数のデザインを入力するとAIがそれをもとに新しい案を生成して、その好感度を評価してみせる、というような機能を追加する試みもされています。

(小林 亮太、篠本 滋、甘利 俊一「AI新世」文藝春秋 2022年 試験問題用に一部変更を加えた)

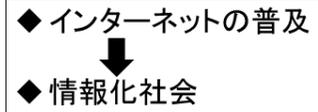
問 傍線部についてのわかりやすい説明を、三ページまたは四ページのプレゼンテーション資料としてまとめよ。なお、プレゼンテーション資料の書式に関しては、以下の指示に従うこと。

プレゼンテーション資料の書式

スライドの書式

- ◆各ページの最初に、そのページの見出しを付けること
 - このページでは、「スライドの書式」が見出し
- ◆スライドは「横書き」で記述すること
- ◆文(箇条書き)の先頭は印(◆)をつけること
 - 1階層レベルを下げた場合は、先頭の印を(●)に
 - 2階層レベルを下げた場合は、先頭の印を(□)に
- ◆文どうしの関係を示すのに矢印などの記号を用いてもよい

(例)



注意事項

- ◆それぞれの文は長くなりすぎないこと
 - 1行は20文字程度に
 - 長くても1文2行まで
- ◆簡潔にまとめること
 - 分かりやすいことが重要
- ◆余ったスライドはそのまま空白にしておくこと

受験番号 ()

3

1

4

2

問題一

【二】(一)『論語』とソロバンは、はなはだ遠くて近いもの、について

渋沢栄一は、論語とソロバンの関係をどのように捉えていたか。一五〇字以内で説明しなさい。

(一〇点)

【出題意図】 受験者の読解力を検査する。

【解答のポイント】 渋沢の文章を的確におさえれば、解答できる問題である。

【解答例】 論語とソロバンを文学と数学のように相容れない印象を受けるが、それらは対照的なものではなく、基本に論語があり、その上にソロバンが置かれ、社会に活かされる。道理を説いた論語と利益を求める際に使用されるソロバンとをクルマの両輪のように捉えながら社会活動を行わなければ国の富を永続させることはできない。(一四七文字)

【二】(二)士魂商才、について

(あ) 「不道德やうそ、外面ばかりで中身のない『商才』など、決して本当の『商才』ではない」と渋沢は述べているが、現代社会において「不道德」や「うそ」といった行動により「商才」つまり経営活動や経済活動において問題となっている現象がよく生じている。そうした現象について、あなたの知っている事例を紹介しなさい。(五点)

【出題意図】 社会科学のある大学を受験する受験者として社会経済的な知識を問う。

【解答のポイント】 社会的事象、とりわけ経済的事象に関心を持ち知識を得ていること。

【解答例】 「ビッグモーター」「自動車会社のリコール隠し」「産地偽装」「粉飾決算」など

(い) この下線部の意味を四字熟語で表しなさい。(五点)

【出題意図】 基本的な熟語を理解しているかを確認する。

【解答のポイント】 文章に書かれている内容を四字熟語で表現できるか。

【解答例】 温故知新(おんこちしん)、覽古考新(らんこうしん)、

承前啓後(しょうぜんけいご)、因往推来(いんおうすいらい) など

【三】 (三) 得意なときと、失意のとき、について、この内容を一五〇字以内で要約しなさい。

(一〇点)

【出題意図】 受験者の読解力と要約力を検査する。

【解答のポイント】 文章の内容を理解できれば、解答できる問題である。

【解答例】 人間は得意な時ほど慎重に足下をすくわれないようにしなければならない。だが失意の時だといって落ち込む必要はない。心構えとして平常心(道理)を守っておけば良い。同じく大きなことや些細なことをする際にも同じ心構えで臨むことが肝心である。些細なことが大きなことになったり、その逆もあるので注意が必要である。(一四九文字)

【四】 渋沢栄一はこの著書に『論語と算盤』というタイトルを付けましたが、あなたは、この本の内容からなんというタイトルを付けるか? そのタイトルを解答しなさい。(二〇点)

【出題意図】 出題(部分)の文章全体の内容を理解すると共に、書物(全体)としてどのようなことを渋沢は示したいかということ想像力を確認する。(卒業論文のタイトルなどの作成の際に必要なとなる能力である。)

【解答のポイント】 文脈に照らして適当なタイトルを引きだしてあげることができれば良い。

【解答例】 「道徳と利益」「文学と算術」「勉強と仕事」など

【五】二〇二四年は二〇年ぶりに新札が印刷された。政府広報オンラインによれば「新しいお札の肖像になった三名は、新たな産業の育成、女性活躍、科学の発展といった面から日本の近代化に大きく貢献しました」と新札に採用された人たちの特徴を表している。

日本の近代化に（一）新たな産業の育成で貢献したのは「渋沢栄一」であるが、（二）女性活躍、（三）科学の発展に貢献したのは誰か。フルネームで回答しなさい。（一〇点）

<https://www.gov-online.go.jp/article/202406/entry-6075.html#columnfirstSection>

【出題意図】日本の社会的事象や経済的事象などに関して広い関心を持っているかを確認する。

【解答のポイント】本人試直前の二〇二四年七月に新札が発行された。時事的事象の情報収集ができていれば解答できる問題である。

【解答例】（二）津田梅子、（三）北里柴三郎

出題意図と解答ポイントについて

問題二

【出題意図】

受験者の読解力および要約する能力を検査する。また、プレゼンテーション形式の解答を求めることにより、受験者の論理構成力および表現力について検査する。

【解答ポイント】

- ・文章の内容を要約するために必要な事項を不足無く記述できているか。
- ・説明すべき内容を「簡潔に」表現できているか。
- ・記述した文章の構成や階層構造が適切であるか。
- ・他者に分かりやすい、伝わりやすい表現ができているか。

機械学習・AIの予測

- ◆大量のデータを学習



- ◆新しい入力に対する予測を可能に

- ◆問題点

- 過去に似た例がない入力に対して評価予想が不正確



- 例が無い入力にはそのままは使えない
→「深層学習を『補助具』」

3

予測の仕組みの概要

- ◆新デザインと類似する過去のデザインがある
- ◆過去のデザインは、売れ行きの結果がある
- ◆類似したデザインは売れ行きも類似すると予想



- ◆過去のデザインの売れ行きから、新しいデザインの売れ行きを予想

1

過去に例が無い場合の解決法

- ◆解決のために必要な事項

- 深い考察
- 「ひらめき」「直感」→現在のAIは未実装



- ◆人間が「ひらめき」「直感」を与えることが必要
→「人がデザインを工夫する」

4

類似デザインから予測ができる理由

- ◆似たパッケージ例が多い
→中身の影響が平均化
→パッケージの影響も平均化



- ◆パッケージの売れ行きへの影響が推定できる
- ◆経験知識が多いほうが正確な予測が可能
→機械学習でも学習データが多いほうが予測が正確

2